



島根県立隠岐高等学校通信

# 尼寺原

回覧



第159号

島根県立隠岐高等学校 令和元年9月発行

## 令和元年度 隠岐高等学校学園祭「尼寺原祭 躍動 ~今、時を翔ける~」

8月30日(金)・8月31日(土)の2日間にわたり尼寺原祭(学園祭)を行いました。

文化祭では吹奏楽部による演奏、合唱コンクール、未成年の主張、仮装大会、文化部や授業作品の展示が行われました。PTA主催の模擬店(焼きそば、タコ焼き等の販売)や隠岐養護学校による作業製品の販売もありました。

体育祭は天候にも恵まれ、生徒の若さあふれるパフォーマンスにより、とても素晴らしいものになりました。多くの保護者や地域の方々に来校いただき、生徒の躍動する姿を見ていただきました。ありがとうございました。

	合唱	仮装	競技	応援合戦	応援衣装	デコレーション	総合順位
1位	3-2	赤	緑	赤	緑	赤	赤
2位	3-1	緑	青	青	赤	青	緑
3位	3-3	青	赤	緑	青	緑	青

赤分団	青分団	緑分団
3-2	3-1	3-3
2-3	2-1	2-2
1-3	1-2	1-1

~尼寺原祭2日間の様子~



合唱コンクール



吹奏楽部による演奏



仮装大会



PTA模擬店



体育祭(綱引き)



応援合戦(緑)



応援合戦(赤)



応援合戦(青)



色別対抗リレー

# 隠岐ジオパーク研究発表 ～世界へ～

9月3日からインドネシアのリンジャニ・ロンボクユネスコ世界ジオパーク（Rinjani-Lombok UNESCO Global Geopark）で行われた第6回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムに、3年生齋藤陽花さん、高梨起くん、谷本誓さんが5泊6日の日程で参加してきました。3人はこの日のために、夏休みの間や学園祭の準備の間も練習を続けてきました。英語での発表が初めての生徒もいる中、お互いのできることを考え、より良い発表になるよう取り組みました。

## ◆発表タイトル

「Let's Protect Our Hometown ! Fun Way of Learning about Coreopsis Lanceolata, an Invasive Alien Species」

（ふるさとを守ろう 私たちの手で ～特定外来生物オオキンケイギクを楽しく学べる方法の提案～）

以下は発表の様子、生徒による感想です。



## 3年2組 齋藤 陽花さん

私は、先日インドネシアで開催された第6回アジア太平洋ジオパークネットワークのシンポジウムに参加してきました。他国の多くの人に向けての発表は初めてで緊張しましたが、何度も練習して、当日は最後までやりきることができました。発表後にはいくつか質問も来て、英語で返答することには戸惑いもありましたが、自分の言葉で伝えることができ、ほっとしました。また、ほかのジオパークの発表を聞く機会もあり、様々な取り組みがあることを知りました。発表以外では、フィールドワークやセレモニーなど現地の方々と関わる機会も多く、日本との違いや共通点を改めて感じました。1年生の頃から約2年間ジオパーク研究を続け、自分たちで課題を見つけ、それに対して取り組む大変さとやりがいを感じました。この貴重な体験をこれからの取り組みに活かしていきたいです。

## 3年3組 高梨 起くん

私は初の海外で出発時、不安と期待が入り混じっていました。見るものすべてが新しく常に落ち着かなかったです。ロンボク島のリンジャニ世界ジオパークへ参加者の皆さんと行った際、現地の方たちが旗を振り歓迎してくれました、他にも滞在中にさまざまなもてなしがあり、ジオパークはヒトが造っているということを実感しました。最終日の夕食時の様子は一番素晴らしかったです。APGN 参加者の国籍も文化も言語も違う方たちがジオパークという共通の誇りを持って笑顔で分かち合い楽しむ姿はなかなか見られないと思います。生まれた国が違って交流はできる。この体験で世界が小さくて身近なものに思えてきました。この先、何か事業を行うとき、物事を小さく考えず何事も大きく見よう意識しようと思いました。それと外国語がわからないまま発表やスピーチを聞くとかなりのストレスになるとわかったので外国語を学習しようと思います。

## 3年3組 谷本 誓さん

APGNではいろいろな国の人たちが参加していました。自然の保護などを目的として活動する人たちはとても誇りを持ち堂々としている印象が残ります。何かに一生懸命に取り組む姿は誰が見てもカッコいいと思います。その中に私たちもいるということに感動してしまいました。

私は、高校に入学した当初はデザインやイラストの専門学校を進路として選んでいました。絵を描くことが好きで何かに自分の気持ちを表現することが楽しかったと同時に、自分にはこれしかないと思いつけてしまっていたからです。しかし、このプロジェクトを通してチームで協力することにより自分の新しい道が開けてきたと思います。これからも私はいろいろなことを学んで今後の人生に活かせるよう頑張ろうと思います。

